

要項・提言原稿について

I 分科会の提言内容・研究の進め方

変化の激しい社会においては、生涯を通じて常に学び続ける姿勢が必要になってきており、家庭や地域との連携を進め、魅力ある学校をめざし共に育てていく視点が必要である。その推進役としての役割は、教頭・副校長が担っている。教頭・副校長の研究として、次の五点を研究の柱として取り組む必要がある。

- ・教頭・副校長としての関与性が明確な研究
- ・組織的で協働性のある研究
- ・客観的で継続性のある研究
- ・視点を明確にした鋭角的な研究
- ・教頭・副校長としての資質向上につながる研究

1 踏まえたい3つのポイント

- (1) 全公教第13期全国統一研究主題及び大会のサブテーマを踏まえた発表にする。
- (2) 提言領域は、全国共通課題（6課題）に沿って区分する。
- (3) グループ協議をしやすくするため、実践発表ではなく、ポイントをはっきりさせた提言型の発表にする。

2 研究の進め方の2つのポイント

- (1) 継続性・協働性・関与性（3C）に焦点を当てた実践的研究とする。
- (2) 全公教「研究の手引き」研究協議の視点に基づいて研究する。

II 分科会の提言者

- 1 分科会は、6課題10分科会とする。
- 2 第1課題から第5課題の1つの分科会は、全国提言1名、四国ブロック1名とする。
- 3 第6課題は全公教が主催し、運営は全公教総務部が行う。
- 4 特別分科会Ⅰ（全公教研究部主催）・特別分科会Ⅱ（開催地実行委員会主管）を開催する。

III 大会要項原稿のまとめ方

1 研究主題

- ・提言する課題を具体的に表示すること。
- ・全公教第13期全国統一研究主題及び大会のサブテーマを踏まえ、提言する分科会の領域に基づいて設定する。

2 サブテーマ

- ・研究主題が大きい場合や方向性を示す場合、サブテーマを設定し、研究内容をより具体的にしたり、焦点化したりすること。

3 主題設定の理由

- ・なぜ主題を設定したのか。主題設定の背景や課題性を簡潔にまとめる。

4 研究のねらい

- ・どのようなことが課題となっているのか。
- ・どのような方法で課題解決に取り組もうとしているのか。
- ・何を明らかにしようとしているのか。

5 研究の経過

- ・研究に取り組んだ経過及び取り組み内容を簡潔にまとめる。

6 研究の概要

- ・副校長・教頭として「いつ、誰に、何について、どのような関わり」を簡潔にまとめる。
- ・課題解決への具体的な方策について、量的・質的にも重視する。

7 研究の成果と今後の課題

- ・研究の成果と今後の課題を簡潔にまとめる。

8 協議の柱

- ・提言者研修会用には記載するが、大会要項には載せない。
(提言について、グループで協議する柱を1つ決めておく。)